

鋭利角のステンレス角形鋼管

東洋特殊鋼業が開発、発売

建築金物・構造部材向けに拡販

に比べて、デザイン性が向上。建築金物や各種構造部材向けに拡販を図る。

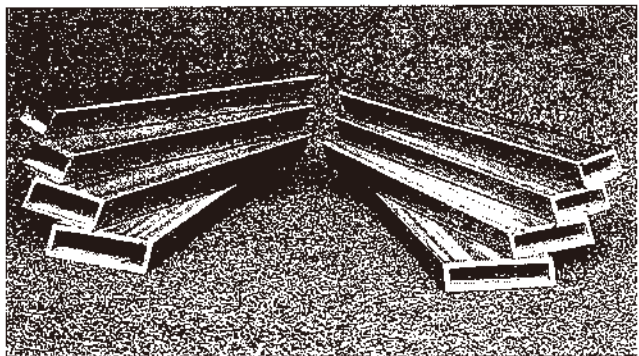
「TTK-304SE」は、母材にSUS304のステンレス溶接鋼管（丸パイプ）を使用し、ロール成形加工で角形鋼管にする。

「TTK」と「SE」はそれぞれ社名と「シャープ・エッジ（Sharp Edge）」の頭文字。

同社の既存ミルを改造した独自のロール成形技術によって、角部の寸法を 1mm 以下に仕上げた。こうしたシャ

異形管メーカーの東洋特殊鋼業（本社・大阪市西区、社長・武藤賢一氏）は、角部分を鋭利にしたステンレス製角形鋼管「TTK-304SE」を開発し、来月から販売を開始する。従来平鋼の組み合わせで行っていた部材

ープなエッジを出す部材にはステンレス製の平鋼を使用するのが一般的だが、「TTK-304SE」を使用すれば、すっきりした質感のデザイン性を持たせつつ、重量も約50%の軽量化が図れる（同社基準値比）。



角部分を鋭利にしたステンレス製角形鋼管の「TTK-304SE」

リ、 16mm 、 19mm の3シリーズで、幅は $50\sim 77\text{mm}$ の全12種類をラインアップする。定尺は4尺。長さやサイズについては個別対応も行う。

すでに一部サンプル出荷を開始している。

手すりや面格子の建築金物、食品・薬品機械、水処理機器などの用途に販売を展開。「今後、東京五輪関連のインフラ整備事業に関連した手すりやモニメント向けなどへの採用を期待」（三濱善嗣副社長）としている。

表面は鈍い光沢のある仕上げに。美観性を出すため表面に長い筋目を付けるヘアライン研磨やより光沢のある表面を出す400番研磨加工にも対応する。

板厚はすべて 3mm 。サイズレンジは高さ12